はじめに

地域がん登録全国協議会総会研究会も回を重ね8回目の会を平成11年9月14日に兵庫県神戸市「ひょうご国際プラザ」で開催する事ができました。13日の実務者研修会、自由集会、14日の総会研究会ともに予想以上に多くの参加者があり盛会のうちに終える事ができました。ここに皆様方のご協力、ご援助に対し厚くお礼申し上げます。又、その記録集がJACR Monograph No.5として発刊できます事は関係各位のご協力の賜物と重ねて感謝申し上げます。

今回の総会研究会のテーマは「地域がん登録の予防医学への貢献」でありました。地域がん登録が、がん対策の企画、評価に不可欠であるとの認識はがん登録実施者側にあっても、行政、大部分の医療関係者、住民には十分認識されているとはいい難いのが実情と思われます。登録室では定期的に得られた基礎的な数値（罹患率、生存率など）を年報のような形で発表し情報の還元に努めていますが、更に理解を深め協力を得てがん登録を発展させていくためには種々の工夫が必要と思われます。がん登録事業が老人保健法にもとづくの補助事業から外れ財政的にも一般財源化された今、何を目的として登録をするのかをそれぞれの県が明確にする事が求められています。従来、保健行政、がん対策においても論拠に基づいた施策が行われる事が少なかったと思われますが、これからは論拠に基づいた医療サービスが求められてきており、そのためには基礎的な数値をそれぞれの県が整備する事は必須の事です。利用可能ながん登録であるためには精度の高い登録でなければなりませんが、そのためには法的な整備がされなければならない事はもちろんですが、限られた財源、人的資源でどのようにして効果をあげるか登録システムを見直す必要もあるでしょうし、病院での病歴管理の充実を求めていく必要もあると思われます。又、情報の利用、還元を積極的に行っていく事も登録事業推進のためには重要です。精度が十分高くないため積極的に情報還元する事をためらう登録室も多いと思われますが、それぞれの登録室で可能な事から実現し登録につき理解を得る必要があります。行政担当者、保健婦、医師、疫学研究者、住民それぞれに成果の公表、情報の利用の仕方は異なりますが、提供出来る事から少しずつ範囲を広げていく事が登録を知ってもらい理解してもらう道の一つと思われます。

今回のシンポジウム「地域がん登録の予防医学への貢献」では一次予防、二次予防、医学介入による予防効果の企画や評価に対しがん登録がどのように利用されているかという利用面と情報の公表につき種々の角度からの発表と討論が行われました。

多くの登録室ではこれらの成果も発表できたらと願いつつも、まだまだ罹患率の算定等で精一杯というのが実情と思われます。精度を高めていく事と利用の促進は車の両輪であり、いずれもないがしろにはできません。しかし、精度が高くなければ利用できないし、その年その年の罹患者のデータを後になって集める事は困難ですから、スタッフの少ない登録室ではまず精度を高める事に努力しなければならないでしょう。正確な数値を整備していく事は予防医学への貢献の基礎と思います。

このMonographが理想の状態と現実の状態の深いギャップに悩みつつ、それでもなんとか精度の高い登録にしたいと努力されている登録業務従事者にそれぞれの登録の今後の取り組みの参考になり、又、直接登録事業に携わっておられない方々にはがん登録が多くの可能性を持った宝の山である事を知っていただく助けになれば幸いです。　　（石田輝子）